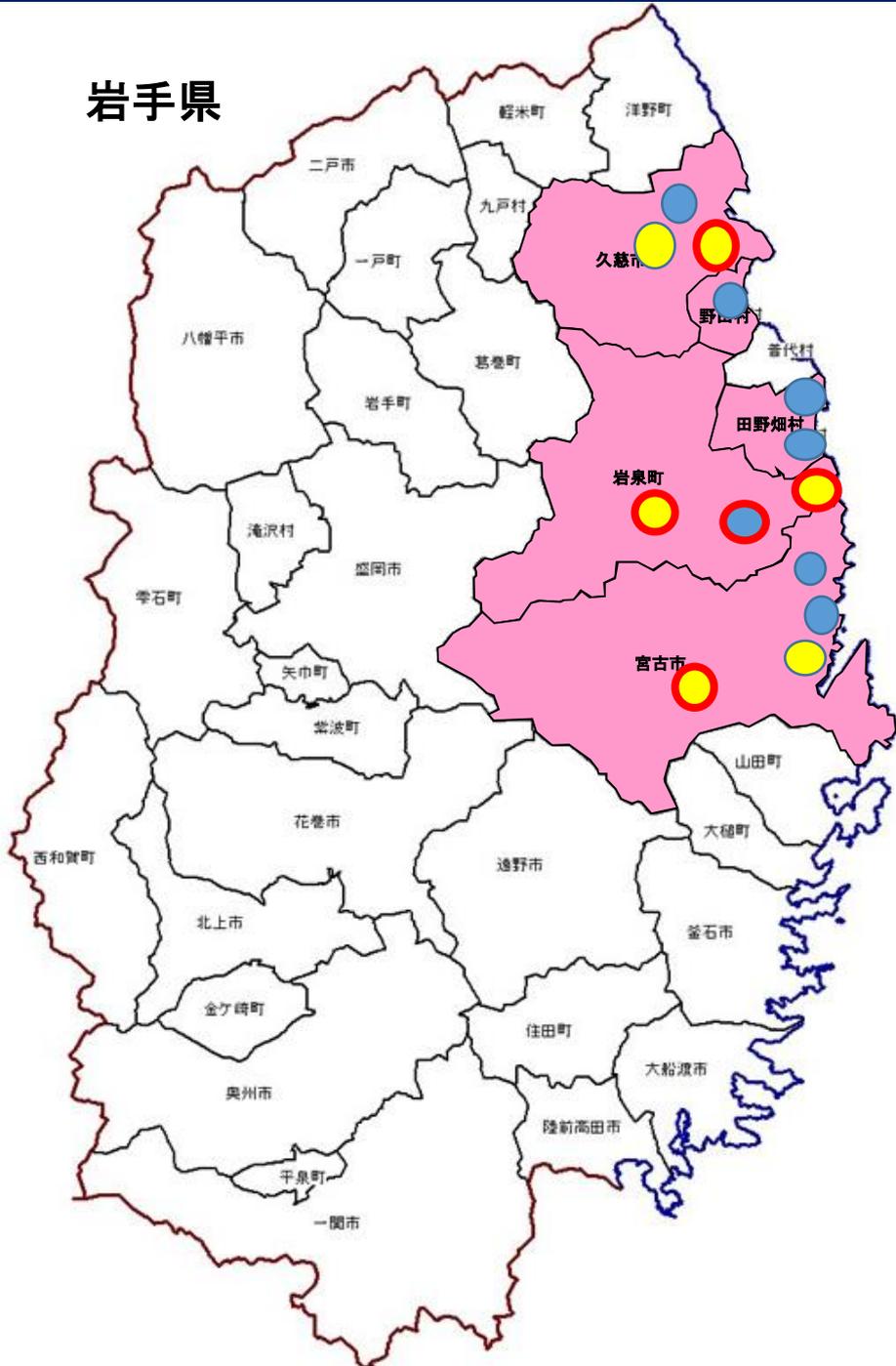


岩手県認知症高齢者グループホーム協会の 取組み（被害状況調査）

岩手県認知症高齢者グループホーム協会

岩手県



- 避難した 6 GH
- 避難しなかった 7 GH
- 被害のあった 5 GH

現地調査	
8月31日~9月1日	
宮古市...	4 GH
岩泉町...	3 GH
田野畑村...	2 GH
野田村...	1 GH
久慈市...	3 GH
計	13 GH

避難のケース ①



- 隣の保育園の副園長が「危険だから逃げろ」との指示で全員避難する。
- 近所の人や近隣に住んでいる職員も協力して、お年寄りを誘導してくれた。
- 指定避難所ではなく、民生委員さんの判断で、「元気の泉」に変更した。
- 建物は1m50cmほど浸水
車2台が被害

避難のケース ②



- 避難の判断で迷っていた。
- 防災無線は大雨で、聞き取れなかった。
- 消防団員の夫に問い合わせたところ、濁流の映像が送信されてきた。「これは危ない!」と判断し、隣の小規模ホームと共に避難した。
- 眠剤を服用していた入居者の移動は大変だった。
- 指定避難所ではない、以前から吟味していた場所へ避難。

避難ケース ③



- 停電となり、川のゴーという異常さに逃げなければと思ったが、戸惑っていた。
- 消防団員と駐在さんが助けに来てくれ、用意してくれ高台の空き家へ避難した。
※避難所にGHの人たちがいないことが分かり、この避難所では認知症の人たちはダメだと判断し、空き民家を整えて迎えに来たとのこと。
- 玄関先まで水が押し寄せた。

調査のまとめ

- 自分たちの判断で避難したGHはなかった。近隣、消防団、民生委員などの声掛け、指示で避難することを後押しされた。
- 判断に迷った時、映像により危機感が高まり避難行動をとれた。
- 指定避難所ではなく、認知症のお年寄りが少しでも過ごしやすい場所を選んでいた。
- 「待て」「大丈夫」「まだまだ」といった判断は危険。水害とは無縁だと信じきっていたが1mほど浸水したGHがあった。

平成 28 年 9 月 3 日

関係各位

岩手県認知症高齢者グループホーム協会会長
日本認知症グループホーム協会岩手県支部支部長
横山 久子

当会は、台風 10 号により、甚大な被害が出た、岩泉町、宮古市、久慈市、野田村、
田野畑村のグループホームに赴き、被害状況についてヒヤリング調査を実施したしま
した。第一報として、報告いたします。

台風 10 号 被害状況調査 第一報

1. 日 時 平成 28 年 8 月 31 日～9 月 1 日
2. 調査員 岩手県認知症高齢者グループホーム協会 内出、川崎、河原、橋詰
3. 概要 (詳細は別紙参照)

今回の台風 10 号の岩手県における被害状況は、局地的な被害が目立った。同じ沿
岸部でも、南部に位置する大船渡市や陸前高田市、釜石市までは全くと言って良いほ
ど被害は無かった。しかし沿岸部を北上するにつれその被害は甚大で、特にも宮古
市、岩泉町、久慈市地域は車で走行するのも難しい状況だった。

今回の情報収集では、約 12 ホームを聞き取りして回ったが、皆口をそろえて話し
た内容は、避難するタイミング判断の難しさを訴えた。

これまでの台風や水害の状況から判断し、避難をしなかったホームもあれば、戦後
最大の台風が東北に初めて上陸するという情報から危機感を感じ、前日から避難を開
始したホームもあった。法人や管理者の判断が利用者、職員の命に直結しているとい
う認識の違いが今回の被害につながった。

久慈のあるホームでは、これまでの水害がホームまで達していなかったため、避難
せずに過ごそうとしていたが、身内からこれまで見たこともないような川の氾濫の様
子を動画で確認し避難を始めた。あと数分遅ければ避難所までたどり着けなかった。
この事実は、耳から得る情報と目で見ることで体感する危険度の違いを体験した。

また、同じ地域のホームでも避難の予定はなかったが、地域住民が避難したほうが
よいと呼びかけられて外に出たところ、すでに予想以上に浸水しており、避難に時間

が掛かってしまったことを話されていた。

釜石市地域では、雨が降り出す前から避難を開始したが、予想以上に雨が降らず、その日のうちにホームへ戻っている。拍子抜けしたと話された。

上記のホームはいずれも岩手県内であり、同じ台風 10 号が上空を通過している。

事前情報では、大船渡市に上陸と題打ち、報道自体がまるで大船渡に甚大な被害がおとずれると煽っていたが、蓋を開けてみれば大きな被害は宮古市から北で起きていた。当然自然災害は我々の予想を常に凌ぐものではあるが、報道によって誤った判断が下された事実は拭えない。

今回の聞き取りでは判断のタイミングが大きな焦点になったが、判断を下すための情報は耳で得る「見えない情報」ではなく、視覚による「見える情報」で自ら危険度を体感できるかが左右した。

「楽ん楽ん」での被害も夜間ではなく、日中に増水し、視覚によって増水の危険度が測れていたなら避難のタイミングを誤らなかったのではないか。「たれば」にはなるが、避難準備、勧告、指示といった見えない情報ではなく、川の増水の情報を視覚で得て、その危険度を体感していれば間違いなく回避できた可能性は高い。

また、空振りになったとしても明るい時間帯から避難を開始していれば、比較的容易に移動が可能となり、停電で明かりが無い状況で、しかも足元を取られるほどの水位の中での避難は少なくとも行わなくて済んだだろう。

県内の被害状況は、被害が無かったホームは 9 割、甚大な被害を受けたホームが 1 割と、両極端な被害状況となった。

その境界線は、判断の速さ、判断を下すための情報量と質、そしてどこまでの被害を想定できるか、の 3 つにあるのではないか。

9 名の尊い命を失ったことは取り返しのできない事実である。かけがえのない犠牲を糧に、今後岩手県から水害による犠牲者を出さないために、岩手県独自の判断基準を決め、県内全域で共有し、実施することが求められる。

判断基準の策定・・・避難のタイミング（避難準備情報、台風や低気圧の進路）
避難場所の確認、そこまでの確実な経路の確認
指定の避難場所の事前の確認、必要であれば避難所の変更
行政と連携し、川の増水の映像・見える情報の確保体制
空振りに終わっても良いと判断できる勇氣

大きなリスクを回避するために多少のリスクを選択する勇気
選択した判断がもたらす最悪の状況を想定できるか

尚、詳細については別紙を参照していただきたい。

台風10号の被害状況の現地聞き取り調査結果 (2016年9月3日現在)

調査日 2016年8月31日から9月3日

調査 岩手県認知症グループホーム協会

No	グループホーム名	事業主体名	連絡先	被害状況
1	ひきめの森	JA 新いわて	宮古市墓目 5-48-2 0193-77-5031	<ul style="list-style-type: none"> 完全に孤立状態となる。 8月31日市に連絡し、9月1日防災ヘリにて宮古市内の介護保険施設等に9名を避難させる。
2	楽ん楽ん	医療法人緑川会	岩泉町乙茂字上 9-12 0194-22-5333	<ul style="list-style-type: none"> 入居者9名全員死亡。職員は無事救出される。隣の老健施設の入所者86名は全員3階に避難し、無事でヘリコプターで救出。 建物は全壊。 当日の夜勤者は大雨の影響でGHには来られず、ホーム長1名のみが介護スタッフとして勤務していたとのこと。 9名中、6名がホーム内で3名はホームの外で発見された。 通行止め箇所多数
3	いわいずみ	医療法人仁泉会	岩泉町尼額字下坪 41-2 0194-31-1166	<ul style="list-style-type: none"> 30日19:00停電となり、川のゴーッという音に異常さを感じ取り、20:00頃に高台の民家へ9名全員避難し、一晩明かす。翌日ホームに戻っている。 建物は被害がないが、玄関先まで水が押し寄せており、あと10分雨が降り続いていると被害が出ていだろうとホーム長は話していた。

別紙

				<ul style="list-style-type: none"> • 電気、水道は✖。途中の道路も瓦礫があり。復旧は、9月2日の予定とのこと。 • 31日 18:50 当会の部隊が到着し、水、食料などを提供する。特に水とおしり拭きはとても喜ばれた。発災直後の支援の必要性も感じた。 • 明日、母体の医療法人スタッフが水を持って来てくれるとのこと。 • 熱発者1名出るも、翌日は下がっている。 • 職員2名が出勤できずにいる。 • 通行止め箇所多数
4	小本	有限会社 介護施設あお空	岩泉町字南中野 285 1974-28-3456	<ul style="list-style-type: none"> • 夜避難しようと近くの防災センターを見に行ったら、満杯で入れそうもなかったため、グループホームの2階に移動。(1階がリビング、2階が居室)。電気が止まってしまったので、エレベーターは使用不可なので、人力で2階へ避難。 • 隣接する小規模多機能の利用者も2階へ避難した。 • 水道、電気はOK • 玄関先まで汚泥がきており、悪臭がただよっている。
5	あさひ	中央介護センター 有限会社	久慈市旭町 10-66-1 0194-61-3310	<ul style="list-style-type: none"> • 建物は被害なし。水道、水もOK • 台風を見越して、食料の備蓄はしていたとのこと。
6	やすらぎの里	社会福祉法人 門前保育会	久慈市新中の橋 4-12-2 0194-61-3917	<ul style="list-style-type: none"> • 30日の夜は、母体の保育園の副園長の「危険だから逃げろ」との指示で、「元気の泉」に全員避難する。その際、近所の人や近隣に住んでいる職員も総出でお年寄りを誘導したという。

				<ul style="list-style-type: none"> • 建物は1メートル50センチほど浸水したが、片付け後、お年寄り全員ホームに戻っている。 • ホームの車2台は使えなくなってしまったという。 • 泥かきは終了し、石灰をまいていた。 • 食料の備蓄もあり。 • 併設の保育所の被害の方が大きく、再開めどがたっていない。 <p>※避難場所は福祉の里の中の建物だったが、「元気の泉」の方がより安全で使い勝手が良いとのことで、民生委員さんのとっさの判断で避難場所を変更したとのこと。</p>
7	ひだまり	特定非営利活動法人 ファミリーサポート おひさま	久慈市栄町 32-37-9 0194-75-3037	<ul style="list-style-type: none"> • 30日 17:00 過ぎ、大雨のため、避難の判断でスタッフが迷っていた。(防災無線は聞き取れなかった)そこで、家族の消防団員に問い合わせたところ、濁流の動画が送信された。「これは逃げなければ!危ない」と判断し、隣の小規模多機能にも呼びかけ、全員、元気の泉に避難する。 • 避難道路が狭く混雑していたが、どうにか元気の泉に行き着く。もう少し遅ければ、混雑が激しくたどり着けていなかっただろうとも話されている。 • 水道、電気はOK • 31日、岩泉町の認知症高齢者1名を市の要請により、受け入れている。10部屋目の空き部屋を活用。 • GH 建設時、床高にし、水路も多くとった設計とし、水害対策をとっていたという。 • 避難所選定は、市の指定だからそこに行くのではなく、トイレや横になるスペース確保などを考慮して選定している

別紙

				<p>という。特に認知症のお年寄りたちなので吟味している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風は、雨がやんでも安心できない。川の氾濫がある。しかも時間が短い。 ・避難経路も一つだけでは心もとない。 ・「待て」「大丈夫」「まだまだ」といった判断は危険。 ・眠剤服用の入居者の移動は大変であった。
8	ぬくもり	社会福祉法人健慈会	野田村大字玉川 5-45-22 0194-78-3296	<ul style="list-style-type: none"> ・31日の夕方まで電気✕ 現在は復旧している。 ・建物被害もなし。 ・隣が特養で、福祉避難所に指定されている。今回は地域で避難してくる方はいなかったとのこと。
9	たのはた虹の家	社会福祉法人寿生会	田野畑村田野畑 120-18	<ul style="list-style-type: none"> ・30日 19:00 から停電。現在も水、電気 OK。携帯通信✕ ・夜間は2人体制で介護している。 ・台風対策として、カセットコンロは準備していたが、食事は隣接する特養と連携をとっている。 ・しかし、村内の食料品店も閉まっており、食料に関して困りそうだったとのこと。→ GHの仲間に引き継いで、支援することを約束する。取り急ぎお米、水を提供。
10	つくえ	株式会社中城興産	田野畑村机 299 0194-33-3500	<ul style="list-style-type: none"> ・30日から停電が続き、31日9時頃に復旧。停電後、オール電化だったので、急遽、プロパンガスを準備した。 ・ネットがつながらなくて不便。 ・建物被害なし。
11	檜内	有限会社 川崎タクシー	宮古市田老字西向山 119-16	<ul style="list-style-type: none"> ・建物被害はなかったが、強風のため建物の中にいることが恐怖だったとのこと。

別紙

			0193-87-4333	• 水道、電気は OK
12	赤前	有限会社 介護施設あお空	宮古市赤前 4-83 0193-67-3333	• 当該法人の本部(デイサービス)へ避難したが、避難先が浸水したため GH 赤前に戻った。
13	おもつべ	医療法人仁泉会	宮古市田老字重津部 34-77 0193-87-9132	• 建物は OK • 電気×

文責 岩手県認知症グループホーム協会調査員(内出、川崎、河原、橋詰)